



愛隣幼稚園 .....

園だより

.....21.6月

## 大きくなるっていうことは

6月になります。千葉市もまん延防止等重点措置の延長が決まりましたが、引き続き大人は知恵を絞って子どもたちと楽しい園生活を創っていきたいと思います。

先週火曜日、今年度初めて、たんぼぼ組からもり組まで幼稚園中の仲間が集まった礼拝をしました。それまでは年中と年長だけの礼拝が続いていたのですが、この日は礼拝も初めてのたんぼぼ組が参加しました。私たちは初めて集まる子どもたちの様子に興味津々でしたが、その様子を驚きながら、しかし嬉しい気持ちで見ることになりました。多くはもり組の子どもたちでしたが、中にはばら組の子どもたちも、初めてのたんぼぼ組にそれはそれは優しく丁寧に礼拝でのあれこれを伝えてあげているのです。こんな言い方をしてはもり組の仲間たちには失礼かもしれませんが、その様子は驚くほど立派で、「愛隣の年長組」になったことをその姿で私たちにを見せてくれるものでした。(田久保裕季先生は涙が出そうになったと言っていました。)子どもがどうやって大きくなっていくのかということが、よく分かる出来事だったと思います。大きくなるということは、ひとりの(自らの)大きくなろうとする力だけでは、実現できません。そこに自分以外の小さい人の存在(ここでは主にたんぼぼ組の子どもたち)やそこに生じる関わりがあって初めて大きくなることのできるのです。そして、幼稚園でのそれは家庭の中にあるきょうだいの関係とは異なっています。きょうだいはプライベートな関係ですが、幼稚園で経験するのはパブリックな関係です。わがままや甘えをチラリとも見せることができない、大きくならざるを得ない関係なのです。ほんの数ヶ月前まではそんな素振りもなかった人たちが、人との関係の中でそうして自分をコントロール(律する)するようになるのです。この変化(成長)の大きさは目を見張るものがあります。「年長さんだから、しっかりね。」とか「大きくなったんだから、ちゃんとしなさい。」(この“ちゃんと”も意味不明ですが・・・)などと大人が百万遍言っても子どもには少しも響きませんが、自分より小さい人たちが居てくれて、そこに出会いがあり、関わりが生まれれば、子どもたちはいとも容易く大きくなることのできるのです。

既に夏休みまでの園生活も中盤を過ぎました。これからますます子どもたちの活動は活発になり、広がりを見せていきます。幼稚園が大事にしている“あそび”が少しずつ渦になっていきます。そして、礼拝だけではなくこの“あそび”を通して更に子どもたちは出会い、あそびの中で関わりを重ねていくのです。「せんせい、あのこがね・・・。」そう言って遊んでいるたんぼぼ組も、自分たちのあそびの中で、互いに名前があることに気付き、名前を呼ぶようになるはずです。(親や先生を通してでなく、自分と相手という関係が成立し名前を呼び合う仲になる、これも大きな成長です。)楽しそうに遊んでいるもり組に出かけて行って、きっといろいろなものを見てくることでしょう。ほんの少し仲間に入れてもらうことがあるかもしれません。小さい子どもたちの経験は豊かになり、大きい子どもたちの心も広く豊かに育っていきます。“あそび”は子どもを繋げ、子どもを成長させてくれます。もし、毎日、大人からお題をいただき、与えられたミッションを消化していくような園生活だとしたら、子どもたちの成長にこんなに驚くことはないかもしれません。幼稚園中の子どもたちが“あそび”を中心に共に創る園生活こそ、大きくなっていく子どもたちになくてはならないものです。このあと始まる保育参観、少し大きくなった子どもたちにも是非、ご注目を!